

映画上映 & トークショー
石橋義正監督 新作映画

ミロクローゼ
Milocrorze

2013 年 3 月 17 日・19 日・20 日 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館ミュージアムホール

プレスリリース



©2012「ミロクローゼ」製作委員会

◎お問い合わせ先

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団

担当学芸員：中田耕市

〒763-0022香川県丸亀市浜町80-1（JR丸亀駅前）

TEL. 0877-24-7755 FAX. 0877-24-7766

MAIL. nakata@mimoca.org URL. <http://mimoca.org>

作品画像をご用意しております。掲載いただける場合は、当館公式サイト内「プレス向け情報」
(<http://mimoca.org/ja/press/>) をご利用ください。

映画上映&トークショー 石橋義正監督 新作映画「ミロクローゼ」

◎概要

2010 年夏、大規模な個展「SickeTel-キュピキュピと石橋義正-」で話題をさらった石橋義正が、**新作長編映画「ミロクローゼ」**をひっさげ、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館にもどってきます。世界各地の映画祭で喝采を浴びた「ミロクローゼ」は 2012 年 11 月東京を皮切りに、現在全国ロードショウ中。**四国では当館が初上映**です。ぜひお見逃しなく。

日時：1. 2013 年 3 月 17 日(日) 15:00-

*** 初回のみ上映終了後、石橋義正（監督）、船引亜樹（美術デザイン）によるトークショーを行います**

2. 3 月 19 日(火) 19:00-

3. 3 月 20 日(水・祝) 15:00-

計 3 回上映

場所：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 2 階ミュージアムホール

定員：各回 170 名

料金：1,300 円（前売・当日共通）

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団、「ミロクローゼ」製作委員会

《スペシャルイベントも開催！》

初回（3 月 17 日）は上映終了後に、石橋義正（監督）、船引亜樹（美術デザイン）のトークショーを開催。制作のエピソードなど存分に語っていただきます。

石橋義正・船引亜樹トークショー

日時：2013 年 3 月 17 日(日) 16:45-（約 60 分）

場所：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 2 階ミュージアムホール

*** 上映チケットをお持ちの方のみご参加いただけます**

◎チケット販売

2013 年 2 月 11 日(月・祝) 10:00 より、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 1 階受付にて発売開始。当館公式ウェブサイト、詳細ページ内 (<http://www.mimoca.org/ja/events/2013/03/17/812/>) のフォームより購入予約も承ります。

◎講師紹介

石橋 義正（いしばし よしまさ） [監督・脚本・美術・編集・音楽]

1968 年京都生まれ。京都市立芸術大学大学院造形構想に在学中、英国王立芸術大学（RCA）映画科に交換留学。1997 年公開の映画『狂わせたいの』がストックホルム国際映画祭正式出品、第 8 回日本映画プロフェッショナル大賞新人監督賞受賞。

また、映像＋パフォーマンスユニット「キュピキュピ」を主宰し、国内はもとより、N.Y. やパリ、ロンドンなどの海外の美術館やホールでも映像作品の展示やビジュアル性の強いライブパフォーマンスの発表をしてくれている。2000 年に異色の TV 番組「バミリオン・プレジャー・ナイト」を製作、2002 年より製作を続ける「オー！マイキー」がベルリン国際映画祭に招待されるなど高い評価を得る。

2010 年には丸亀市猪熊弦一郎現代美術館で大規模な個展「SickeTel-キュピキュピと石橋義正-」を開催。近年は能や長唄、和太鼓など伝統芸能とメディアアートを融合した革新的な舞台作品を発表するなど、映画製作と同時に幅広い独自の活動を行っている。

船引 亜樹（ふなびき あき） [美術デザイン]

大阪生まれ。京都市立芸術大学美術学部卒業。1998 年にデザイン事務所ピコ・ピクチャーズを設立。キャラクター、グラフィック、イラストレーション、各地の国立博物館など文化施設の VI など多くのデザインを手がける。『YKK』社会貢献活動、海外ワークショップツールが「グッドデザイン賞」コミュニケーション部門を受賞。また、2000 年コマ撮りクレイアニメ作品「人形芸人ドント&ノット」でアニメーション監督デビュー。SKIP シティ国際 D シネマ映画祭川口市民賞を受賞、モントリオールニューシネマ映画祭など、国内外の映画祭に招待され、テレビ東京でシリーズオンエアされる。

以降、CM や PV、映画、文化施設において、平面・立体に関わらず数多くのアニメーション映像を制作。2007 年にアニメート・美術を担当した『00100』のミュージックビデオは、オタワ・インターナショナル・アニメーション・フェスティバル「Best Music Video 賞」を受賞。さらには「バミリオン・プレジャー・ナイト」「オー！マイキー」の美術など、石橋作品のビジュアルデザインも数多く手がけている。

2012 年より、映像と立体のモノ作りユニット「メゾン・ド・ふあり」の活動を開始。多方面に創作の場を広げている。

<http://www2.gol.com/users/funabiki/>

<http://www.dontnot.com/top.html>

◎作品紹介

愛の象徴＝ミロクローゼ

神秘的な美女に恋をする子どものような外見の会社員、草食系男子の悩みを一刀両断する恋愛相談員、何者かにさらわれた恋人を探す片目の浪人。「ミロクローゼ（＝太陽）」のタイトルが示すように彼らはみんな、自分だけの「愛の象徴」を持つ。一見、曖昧に結びついているだけの三者三様のラブストーリー。だが 3 人は同じ時空を生き、愛に惑い、溺れ、一人の愛する女になりふり構わず突き進む愚かな男なのだ。果たして男たちは「ミロクローゼ」をその手につかむことができるのか。ハチャメチャな奮闘が、ペーソスを交えた笑いを誘いだしていく。

世界席卷、異様にしてキャッチー

2011 年 3 月の香港映画祭を皮切りに、2012 年 8 月のインドのオシアン映画祭まで、約 1 年半にも及ぶ地球一周の巡回上映を経て、ついに日本に逆上陸！ アメリカのニューヨーク・アジア映画祭ではオープニング作品に選ば

れ、主演・山田孝之が日本人初のライジング・スター・アワードを受賞。北米最大級の映画祭であるファンタジア・フェスティバルでも長編劇映画部門 最優秀監督賞含む 4 部門に輝くなど、世界中のシネフィルの熱烈な支持を集めてきた。

コンテンポラリーでファッション性に優れた映像、リズミカルなカット割り、グルーヴィーなミュージック、異国情緒あふれる緻密な美術装置、ラストの絵巻を思わせる長回し。異様にしてキャッチーな本作は「何を、どう見せるか」にとことん拘っており、そして生み出されたノンバーバル的なスタイルが世界の幅広い評価を獲得した。まるで音楽を聴くようなカジュアルな感覚で楽しめるはずだ。

山田孝之が一人三役に挑戦

いまもっとも熱視線を注がれる俳優・山田孝之が扮するのは、愛に突き動かされる 3 人の男。ソウルの帝王ジェームス・ブラウンばりのダンス、『マグノリア』（99）のトム・クルーズを彷彿とさせる怪演で見せ切る恋愛相談員・熊谷ベッソン。現代劇、西部劇、時代劇をわたり歩く浪人・タモン。絵本のような世界に生きるチャーミングなキャラクター、オブレネリ プレネリギャー。そのカラフルな演技分けは、固定のイメージを持たない山田孝之の「真骨頂」と言えるだろう。また、本作を象徴するヒロイン”偉大なミロクローゼ”にはマイコ。彼女をめぐってオブレネリ プレネリギャーとひと悶着起こす”なきやむら”には名優・奥田瑛二。さらにタモンが恋する女性ユリに石橋杏奈、美女揃いの遊郭「天柘楼」案内人に岩佐真悠子、賭場の主人にプロレスラーの武藤敬司、壺振り師には原田美枝子、そしてナレーションに美波といった個性派が顔を揃える。また『ツィゴイネルワイゼン』（80）で知られる名匠で、石橋監督に多大な影響を浴びせた鈴木清順監督が、伝説の刺青師をコミカルに演じているところも注目。

主題歌「LOST AND FOUND」を手がけたのは、若者に絶大な人気を誇る ONE OK ROCK。そのタイトルがあらわすように本作の世界観にあわせて書き下ろしたパワフルな楽曲だ。

ワールドスケールにふさわしいメンバーが集結。急転を重ねていく怒濤の 90 分に圧倒され、瞬きする暇はない！

◎関連情報

○映画「ミロクローゼ」公式ウェブサイト <http://milocrorze.jp/>

○予告編 <http://youtu.be/W90A0jdPmgU>

○近県上映館情報 シネマ・クレール（岡山市北区丸の内 1 丁目 5-1） 3 月 16 日（土）より